

かわむらこどもクリニック NEWS

Volume 3 No 9

26号

平成7年 9月 1日

こどもの救急

院長

9月9日は、救急の日です。今月は、救急について考えてみましょう。

大人では、脳出血、心筋梗塞や交通事故等、すぐ浮かんでいきます。こどもにとって、救急とは、どんな状態なのでしょう。もちろん、第一にあげられるのは事故です。あまり知られていないことですが、1歳を過ぎると命にかかわる原因は、病気ではなく事故が一位となっています。内訳では、年少では溺水（水におぼれる）、年長になると交通事故が、最も多く見られます。溺水が多いとは、思い浮かばないかも知れませんが、事実です。日本の場合は、室内特に浴所で、起こっています。こどもは何時、どこへ行くかわかりません。トイレでも風呂でもベランダでも、どこへでも行ってしまいます。危険な場所に行かせないことが大切ですが、たまにはお母さんも、うっかり昼寝をしてしまいます。そんな時でも大丈夫なように、鍵をかける習慣や鍵の位置を替えたり、こどもの力では、開かないようにする工夫が必要です。

転落もよく見られる事故のひとつです。最近、洗濯機の上から落ちたということで、続けて何人が病院を受診しています。洗濯機の上で遊んでいるわけではありません。たまたま、お風呂上がり、お母さんが体を拭いているすきに、落ちてしまったのです。それが、産まれて初めての寝返りだったという、おまけまでついていました。何時、寝返りやつかまり立ちをするかわかりません。床に置くのは、かわいそうな気がしますが、落ちたらもっとかわいそうです。ベビーベッドの柵を上げておくのも、同じことです。

次は、交通痛事故のことを考えてみましょう。交通事故は、道路に飛び出して、はねられることだけではありません。こどもを乗せていて、衝突したり急ブレーキをかけたたりでも、事故は起こります。特に助手席は、顔や頭から飛び込む可能性があり危険です。こどもを助手席に乗せることは、やめましょう。最近チャイルドシートの使用が強調され、車の中での事故を防ぐ運動もあります。かわいい我が子のために、チャイルドシートを準備することも、考えてみましょ

う。どんな事故も同じで、起こってから始めて後悔します。『後悔、先に立たず』の諺どおり、起こってからでは遅いのです。こどもは、自分から、身を守る方法を見つけることが出来ません。親が代わりに、見つけるのは当然であり、義務と考えましょう。

最後に、救急車の利用について考えてみましょう。救急車といえば、かならず救急車が登場します。実際と同乗したことのあるお母さんもいるでしょう。小生はと言えば、新生児を産院に迎えに行くときに、散々乗ってしまいました。乗ること自体、あまり気持ちいいものではないのが、その感想です。救急車の出動件数は、年々増加していることは、皆さんも御存知でしょう。仙台市の場合、救急車の年間出動件数は、19,685件で、26.7分に1回、1日平均とすれば、54件となっています。言って、いけないことかも知れませんが、中にはタクシーがわりに利用する人もいます。こどもの場合、“ひきつけ”で利用することが、多いかも知れませんが、以前からも新聞に載せています。熱性痙攣は、見ていると不安が大きくなりますが、基本的には短い時間で止る、良性的な病気です。以前の新聞を参考に、お母さんがしっかりすることが大切です。

救急の日を機会に、もう一度こどもの回りの危険度をチェックしてみましょう。救急車は、安易に使えば、次の人の対処が遅れるかも知れません。命にかかわるような重症な人を優先したいものです。救急車の利用についても、もう一度考えてみましょう。



9月の知らせ

育児栄養指導
今月から、第1～4水曜日の4回となります。参加無料です。

臨時休診
9月9日は、総会のため、午後休診となります。

読者の広場

どうも最近、投書数が減っています。皆さんもう少

はじめておたよりいたします。

病院で点滴をうけている子供を見るたびになんとなく、あこがれ(?)していた私でしたが、先日なんと自家中毒なるものにとりつかれ、点滴の針を刺すのに泣き叫ぶ我が子を見て、そんなあこがれは、ブツ飛んでしまいました。病院のおもちゃが好きで、来るたびに熱があってもたのしく遊んでいたのに。そんな元気もなく「ねていたい...」という。みなとどうしたの!そうさげびたい私でしたが、その不安も先生や看護婦さんの言葉で次々とふきとんでいくのでした。土曜の夜の食事の時間、日曜日のお休みのところいやな顔もせずみていただいた川村先生!本当にありがとうございます。また何かあるかも知れませんが、よろしく願い致します。

みなとせいやのママでした。

しがんばってください、何でも結構です。今回は投書の代わりに、手作りの人形とお土産をいただきました。あいちゃんのお母さん、はるなちゃんのお母さん有難うございました。他にも余ったおむつを寄付してくれた、だいきくんのお母さん有難うございました。



やはりもう少し活発にしていきたいと、思います。『あげます』、『譲ってください』等で、時間が待てるものであれば結構です。母子手帳などを見ているとイラトなどが上手なお母さんもいるようです。是非どうぞ!

別にですが出来れば、病気の勉強会なども企画していきたいと思っています。慢性の病気、喘息の子をお持ちのお母さんいかがでしょうか。ご意見待っています。採用の粗品がないのが、いけないのでしょうか。

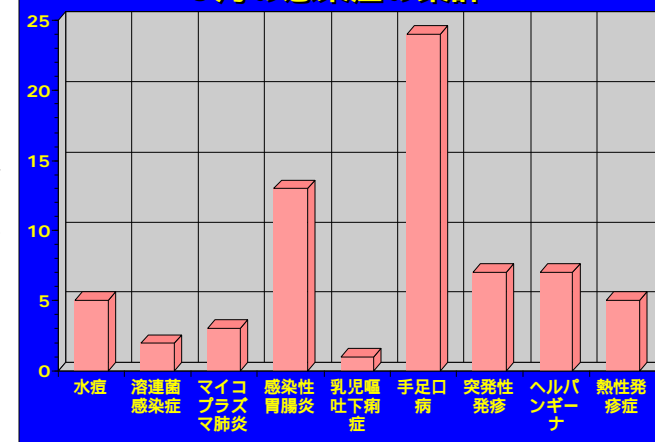
病気ひとくち知識

流行性耳下腺炎

(おたふく)

俗におたふくかぜと呼ばれている。原因は、ムンプスウイルスで、潜伏期は2～3週間とされ飛沫感染で流行する。飛沫感染で伝播し、幼児や学童が中心となる。風疹と同じように不顕性感染が多い。(30～40%)耳下腺腫脹前5日～後9日は感染の可能性がある。主な症状は唾液腺炎で、多くは耳下腺がはれるため“おたふくかぜ”の名前の由来になっている。3～7日で消失し、合併症がなければ発熱は軽度のことが多い。MMRワクチンで問題になった髄膜炎は、10%とかなり高率に見られ、発熱、頭痛、嘔吐を特徴とする。小児では少ないが、睾丸炎や卵巣炎が起こることがある。その他肺炎、腎炎などを起こすこともある。治療は、対症療法のみで、予防にはワクチンがある。ムンプス単独のワクチンによる、髄膜炎等の副作用は、ほとんど見られない。

8月の感染症の集計



8月の半ばを過ぎると、あれほど流行っていた手足口病もあつという間に減ってしまいました。8～9月は一年で最も病気の少ない季節です。但し40℃近く熱がでる、夏風邪があります。マイコプラズマ肺炎が、少し気になります。

乳児健診及び予防接種の時間帯の変更について

最近予防接種及び健診が混雑します。混雑の緩和のため、**9月18日から月曜日**にも健診の時間を設けます。以後の時間帯は、下のようになります。

月 13:30～14:00
火、水、金 14:00～15:00

平日が無理な場合は、土曜日でも可能です。事務、看護婦にご相談ください。

一般の方の診療は、ご遠慮ください。

近日中に、東北放送が当院を取材に来ます。詳しいことが分かり次第掲示します。映りたい方は、どうぞ!

小、中学生の予防接種について

9～10月に、小学校6年生の二種混合(2期)

があります。接種は、当院の接種時間以外でも可能(例えば、夕方や土曜日の午後)です。小学生、中学生の風疹の注射も、を1年を通して接種可能で、同様です。予約は必要ですが、ご相談ください。

編集後記

8月後半から、患者さんもめっきり減っています。従業員一同、冬に向かって充電中です。ゆっくり話したい方は、今がチャンスです。でもなんか変ですね、この文??



目次に戻る

前の号

次の号